

# 地質ニュース

第613号 2005年9月

## 目 録

1. チリ北部, 斑岩金鉱床における脈の産状(セロ・カサレ斑岩金・銅鉱床)	村上 浩康・1
2. マリクंगा帯周辺の地質	村上 浩康・2
チリ北部マリクंगा帯の斑岩金鉱床	村上 浩康・実松 健造・4
海洋表層における物質循環研究 1 -炭素から微量元素へ-	川幡 穂高・13
海洋中深層における地球環境研究 2 -炭素循環から微量元素へ-	川幡 穂高・20
(財)阿蘇火山博物館 -閉鎖の危機から再生・新たな飛躍へ-	池辺伸一郎・28
産総研東北センター一般公開での移動地質標本館	柳澤 教雄・谷田部信郎・38
文学作品の舞台・背景となった地質学 -6-	
『ニルスの不しぎな旅』『パール・ギュント』と北欧の地質	蟹澤 聡史・44
地質相談あれこれ	酒井 彰・60
編集後記	66

## 表 紙

岩塔状石英-明ばん石変質部：セロ・カサレ鉱床西部のカセドラル峰に発達する岩塔状石英-明ばん石変質部。写真奥はセロ・カサレ鉱床で、カナダ及びチリの合弁会社による探鉱活動が実施されている。山腹に張り巡らされた道路際の各所でボーリングが行われた結果、これまでに埋蔵鉱量12億8,000万t、金量900t、銅量450万tの巨大斑岩金・銅鉱床であることが確認されている。

(写真と文：村上浩康)

 産業技術総合研究所  
地質調査総合センター

Geological Survey of Japan / AIST

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754

Fax. 029-861-3746

<http://www.gsj.jp/>